

# LSTP (リーダーシップ実践) サンプル

## ■ 研修のねらい(ゴール) / 期待される効果

覚えたり、知識の修得をするだけでなく、体験学習の方法を用いる。その中で、自職場の状況に応じたリーダーシップを発揮し、自ら決断し動ける能力を習得する。

1. リーダーとして高い成果を創出する組織形成3つのポイントを学習する。
  - ①チーム全体の把握・診断するためモニタリング
  - ②チーム目標へ向けてのメンバー個々のやる気と行動を引き出すリーディング
  - ③チームないしメンバーへのフィードバック
2. 状況に適切に対応する合理的な「意思決定」の仕方
3. 複数の異なるチームが協働・組織化を導くリーダーシップ
4. チーム活動の士気を高めるスキルと情報の共有化。
5. チーム内の葛藤を解決し win-winにもっていくコンフリクト・マネジメント

## ■ 研修の進め方の特徴

1. リーダーシップスキルを4段階に分け、現実状況に類似したシミュレーションの中で体験的な実証を積み重ねながら身につける。
  - ①自己洞察力
  - ②対人関係能力
  - ③集団内(課内)リーダーシップ能力
  - ④集団間(課間)リーダーシップ能力
2. 頭で理解している知識や技法の領域を脱し、現実状況にリアルに対応できる「スキル化されたリーダーシップ」を学び取る。
3. 自分の特性をリアルに把握し、それを最大限に活かしたリーダーシップを発揮するべく、自分の啓発課題を常に念頭に置きそれを研鑽する進め方になっている。
4. グループ編成を行い、受講者はそれぞれ相手グループのコンサルタントの役割として「相手グループを活性化させ、且つメンバー個々のリーダーシップスキルを強化する為の援助を行う」という役割を担う。その進め方や戦略は原則としてグループに任せられている。従って、グループは自らの目標設定・戦略構築・役割分担などのコンテンツを整備し、課題に取り組む。
5. 講師は必要に応じて全体会を開催する。この時間中メンバーは課題から離れ、講師が提供する理論を聴講したり、その時点までの状況を客観視したりすることで、体験を論理として整理しながら次のステップに進むきっかけを得る。グループに与えられている課題は実際に渦中に入ると混乱が起き易い難題であり、それに取り組む中で、各人の論理力・ストレス耐性・諸々のリーダーシップ・フォロアーシップがありのままに発揮される事になる。

お問い合わせ先

## ■ プログラム (案)

| 時 間   | 1 日 目   | 2 日 目   |
|-------|---|---|
| 9:00  | <b>■オリエンテーション</b><br>①研修のねらいの確認<br>②メンバーを知る「ハーマンモデル」<br>③強いチームと10の要素<br><br><b>■チーム診断力</b><br>①チーム診断の方法<br>②診断と介入(フィードバック)<br>③チーム討議I 「金魚鉢会議」 | <b>■講習の進め方の注意事項 つづき</b><br>③演習Ⅲ<br>ー全体会:葛藤解決プロセスー<br>ー全体会:チームビジョンー<br><br>④演習Ⅳ            |
| 12:00 | 昼 食   | 昼 食   |
| 13:00 | ④チーム討議Ⅱ「課題解決演習」<br>Part1<br>Part2<br>⑤チーム討議のふりかえり<br><br><b>■演習 集団間相互援助活動</b><br>①演習の進め方ガイダンス<br>②演習の準備<br>③チーム目標と個人目標の設定                     | ー全体会<br><br><b>■演習の整理</b><br>①学習したこと<br>・チーム行動とパフォーマンス<br>・リーダーシップ行動<br><br><b>■研修まとめ</b> |
| 12:00 | 夕 食   | 17:00 終了予定  |
| 19:00 | <b>■演習の進め方の注意事項</b><br>①演習Ⅰ<br>ー全体会:コミュニケーション<br>プロセスー<br><br>②演習Ⅱ<br>ー全体会:意思決定プロセスー  |   |
| 21:00 |   |   |

※研修の進行、受講者の状態により、一部変更する場合がございますので、予めご了承ください。

お問い合わせ先